

第 8 回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和 5 年 1 月 24 日（火） 午後 7 時～午後 9 時

■開催場所 多摩市役所 本庁舎 3 階 特別会議室

■出席委員 15 名（50 音順）

朝日 ちさと会長、宮本 太郎副会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、
尾中 信夫委員、勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、高木 康裕委員、
春田 祐子委員、福井 博文委員、細野 佳苗委員、松野 茂樹委員、鷲尾 和彦委員

■欠席委員 0 名（50 音順）

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、
池田主任、上川主任

■傍聴者 1 名

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 目指すまちの姿について
- 3 その他

閉会

1 開会

出席委員数は15名であり、定足数に達しているため審議会は成立した。

【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料39）の確認を行い、修正等なく了承された。

【2 目指すまちの姿について】

事務局より審議会での委員意見の分類について説明。

事務局 審議会目指すまちの姿についていただいた意見については、基本構想に加えて、基本計画や個別計画などにおいてそれぞれ反映していきたいと考えている。

会長 基本構想を議論いただき、後の基本計画に繋がる論点もたくさん出していただいている。基本計画や個別計画に当たる意見と、基本構想に当たる意見についての説明である。

会長 本日は目指すまちの姿について、「環境」の続きと「健康・医療・地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉」「市民活動・文化・スポーツ・平和・人権」の3分野について、ご質問ご意見いただきたい。

○環境分野

事務局より資料38について説明。

会長 「環境」分野は前回審議会での議論の途中であったため、改めて意見いただきたい。現行計画と比べて、カーボンハーフなどの言葉をもっと具体的にしているところが変わっている。前回審議会では目標とすべき文言は入れていくとの意見をいただいた。

委員 文末で「持続可能なまちづくりを進めていきます」という書き方をしているが、これは行政目線・行政主体と受け取られがちな表現である。様々な主体が取り組んでいくべきであるため、市民・企業等と一緒に「行動する」など表現を検討いただきたい。

委員 目指すまちの姿のうち、「環境」分野は他と異なり、身近なものとして誰もが関わりやすい領域であり、「環境」には、環境保全、アメニティ、農業など、いろいろな意味が含まれる。

質問として、多摩市固有の目標はどれか。国や都が決めている目標や漠然と地球規模の目標もあるが、多摩市固有の目標値がどれなのか。また、指標の達成状況において、○や△を付けているのは何に対してか、もう少し多摩市らしさを盛り込めるのではないか。

ルネッサンスの取組はとてもよいと思うし、他の自治体と比べ多摩の特徴だと感じる。ボランティア参加率はこのくらいの水準を目標として皆で取り組もうなど、このまちの環境に適した目標の設定を目指すべきである。むしろ東京都に対して提示しているくらいの目標設定をしていくべきではないか。

事務局 例えば指標での多摩市らしさが必要ということか。

委員 達成状況の欄に○が多いと感じたが、それは何に対しての○なのか。目標値水準は自由に設定できるため、多摩市でできる環境に対してのアクションから目標を設定すれば、もう少しアグレッシブなこともできるのではないか。

事務局 指標は目指すまちの姿より少し細かい施策単位で設定しており、現行計画のものとなっている。次期計画でも当然指標を設定していくことになる。指標の設定の仕方については個別の計画での指標設定との整合も考えながら検討させていただく。

委員 「多摩市気候非常事態宣言」については、2050 年に CO2 実質排出量ゼロを目指すという具体的な数字を出しており、これをもっと表に出すべきではないか。その実現は難しいものであり、宣言だけではなくこれ自体をどのように着実に進めるか、そのための取組を示すべきではないか。

事務局 現在、再生可能エネルギービジョンを策定しており、2050 年の脱炭素、2030 年のカーボンハーフ（市内の排出量を 2013 年比で 50%削減）を目標にしている。今後どのように盛り込んでいくか、総合計画の下に再生可能エネルギービジョンが位置づけられるので、整合性がある形で目標設定をしていく。まだ庁内で議論が始まったばかりであり、まず 2050 年までに CO2 排出ゼロを目標に、ロードマップの作成をスタートした段階である。

委員 目標値を設定しその目標に向かっていくというのはいいが、それを達成できるのはどういうまちの姿か検討することが重要である。こんなまちだからこそ、目標をこういう形で実現できるという視点が「まちに住みたい」に繋がってくる。この点をもう少し考えていくべきだとお伝えしたい。緑が身近にある、参加意欲がある住民が多くいる、自分事としやすいまち、いろいろな世代がいるなど、環境以外のこのまちが持っている姿と掛け算になったときにはじめて実現できるという話が入るといいと考える。

会長 このたたき台では、「自分事として捉える」、「市民全員で」、「緑」などが多摩市の特徴であり、その特徴がこの CO2 実質ゼロを実現するための重要な要素、ポテンシャルであるということが、要素と目標が並列になってしまい、上手く表現できていない感じがする。多摩市の特徴を、目標の実現に向けて頑張ることができるポテンシャルがあるという構成としてはどうか。

また、目標のところは基本計画で対応するとのことだが、○、×の元の指標や目標値自体の性質の基準が分からない。多摩市の特徴を踏まえ、指標設定の基準に一本軸を通すと良い。

続いて、目指すまちの姿の文末について、まちの姿というときには「○○なまちの姿が実現しています」「○○なまちになっています」という語尾にすると良いのではないかな。

○健康・医療・地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉分野

事務局より資料 41 について説明。

委員 目指すまちの姿について 1 点目は、「市民の生涯を通じた健康と幸せを、まち全体で支える取組（「健幸まちづくり）」を推進とあり、健幸まちづくりの推進は今回の構想でさらに充実させるのが良いと考えるが、どこが適当か。健康・医療・福祉の中で述べるか、あるいは重点テーマの該当部分で述べるのかを整理をしたほうがよい。

2 点目は、第 2 パラグラフは行政主体で書かれていることと、医療拠点に特化している点である。後者については、健康・医療・福祉の分野なので医療拠点を整えるだけで

は、全体的に受けていないと感じる。「保健、医療、介護、福祉サービスを受けられるよう身近な拠点」とすることなどを考えてもよいのではないか。また、前者、ここでは行政がやるというトーンだが、例えばネットワークで支えるとか、市民が支えるということもあるのではないか。市民が支えるという中にはヤングケアラーなどの問題もあることを念頭に置くべきと考える。

3点目として、第3パラグラフに「差別のない地域社会を目指す」とあるが、これは次の「市民活動」分野に人権問題があるため、ここでは別のことを書くといよいのではないか。

全体として、目指すまちの姿は、現行計画と次期計画でどのように違うかについていずれ問われると思う。基本計画での施策としての具体化を皆で認識しながら基本構想をバージョンアップして、現行計画より踏み込んでいるところを、いくつか目玉として加えながら書いていくのはどうか。

事務局 現行計画における「健幸まちづくり」の位置づけは、基本計画の中の基盤の考え方であったが、次期計画では基本構想に入れることを事務局では考えている。この分野にとどまらない広い概念であり、横断的、重点的な取組として位置づけている。「健幸まちづくり」では、健康的な生活の獲得支援だけではなく、例えば都市基盤、見守りネットワークにも関わる暮らしの安全・安心や、世代の多様性を増やすといったところで、高齢化だけではなく少子化への対応も含めた概念となっている。

2点目・3点目、真ん中のパラグラフが医療に特化しているというご意見と差別という言葉は変えてはどうかというご意見については、多摩市のまちらしさも含めて表現を変えていく中で記載を再考したい。

副会長 多摩市の「健幸まちづくり」を念頭に置くと、第1パラグラフは、健康指導のようなニュアンスがあり、広く深い「健幸まちづくり」が反映しきれていない。「健幸まちづくり」は、体に悪いところが出てきても、いろいろな支えを受けて前向きに生きるという意味と捉えており、健康にとどまらないまちづくりの蓄積だと思う。また、コロナのワクチン接種やウィズコロナ時代を考えると、元気で健康に生き続けることが誰にとっても簡単ではない時代になり、そんな中皆で頑張るというメッセージとして、もう少し広く深いと感じさせる中身が望ましい。

第2パラグラフは、保健、医療、介護、福祉サービスが連携する医療拠点とは何なのかとなるので、「身近な拠点を整え、医療と福祉の連携を重視し、支援する」のように、まず拠点という言葉をしり広くとってはどうか。医療連携構想の考えから、そこが非常に重要だということは承知している。だからこそ、そうした拠点のバックボーンである医療が、多摩市の場合は支えているのだと示すような表現になればよいと考える。

第3パラグラフについて、「差別」という言葉を直接使わずに、例えば「誰も排除されない地域社会」などと表現してはどうか。また、生活困難に対するサポートも入るといいのではないか。

委員 第3パラグラフで「市民の誰もが年齢や差別、障害のあるなしに関わらずお互いを認め合い、住み慣れた地域で自分らしく健幸的な生活を楽しみ」と、健康的な生活がどうということかを説明しているので、最初に移すといいと考える。

差別がない地域社会については、「思いやりのある」「見守り支え合う」地域社会などとしてはどうか。このような言い方にすることで多様性、違う境遇や事情を抱えた人に対する想像力がある社会というイメージが湧いてくるのではないかな。

会長 福祉はかつて対象となる人がはっきりとしていたが、困りごとを抱えた人ならだれでも対象に広まってきたことが表現されていてよいと思う。包摂、インクルーシブというキーワードがどこかであればいいのかもしれない。

委員 今の時代に応じて、高齢に伴う諸問題の複雑化やコロナ禍における子どもたちへの変化、虐待など、環境が変化してきており、それらの諸問題があると文章をもう少し膨らませられないか。「関係機関と連携し支援します」だけでは物足りないと感じる。

事務局 ご指摘のとおりだと考える。今までいただいたところも踏まえ、全体的なボリュームがかなり厚くなってきている。いずれにしても、こういうまちを目指していくというまちの状態を示す表現に変えていく中で、今の諸課題等の背景部分をどのような形で入れられるのか、基本計画との関係や全体ボリュームを見ながら再検討したい。

委員 文章の主語を、目指すまちの姿として「多摩市は」とするのであれば、例えば「多摩市はライフステージに応じた保険、医療、介護、福祉サービスを受けられるような身近な拠点が整っています。関係機関が連携し合い、住民同士が助け合います」というような書き方であれば、行政だけという立ち位置から少し変わると感じる。

○市民活動・文化・スポーツ・平和・人権分野

事務局より資料 43 について説明。

委員 文章の中に、明確に言葉として「平和」と「人権」を入れてほしいと考えます。

委員 1 パラグラフ目に「地域コミュニティの醸成を図る」とあるが、審議会において「関係や場」というキーワードが出ているため、そのニュアンスを盛り込めないか。「地域コミュニティ」という言い方はやや古典的で、地域と人からなる概念である。今回は、これに「関係や場」の考え方を入れる。文言としては、例えば「いつでも隣に誰かがいる地域社会」というのが考えられる。「隣」には、ネットワークなども含めて人によって多様な誰かが困ったときに支えてきてくれる、「誰かが」は、家族や友人、地域に加えて、近接居住する親や子ども、様々なネットワークも含まれるというイメージである。

次に「地域の中で活動する団体や新たに活動する人を応援する」とあるが、それだけではなく「活動しようと思う人を増やす」ことが必要ではないか。誰かが新たに地域活動をやってみようと思うような環境づくりが大事だと考える。例えば、「多摩市のまちを作ることに市民が参画できる、しやすい、したくなる仕組みを作る」ことができればと思う。具体的なイメージとして、これまでの説明の中に「分野を支える様々な組織・活動」の紹介があったが、それらの組織を包括する受け皿のような組織がつくれないか。一つの役割として、分野を支える組織と興味のある人をつなぐ。こうすれば、今ある組織ももっと生きてくると感じる。

副会長 「地域協創」という言葉が出ているが、この仕組みが非常に重要と考えている。地域協創の中心となる場と、先ほどの医療・福祉・健康づくりの拠点がどう違い、どう位置

付けるか。如何に地域活動の拠点を作るかが市民自治の課題であり、事例として、藤沢市では中学校区に全て市民センターとソーシャルワーカーなどを置いたり、三重県名張市では「まちの保健室」を作って健康づくりや困りごとを解決したりしている。行政、地区社協、学校、市民団体が連携して場や仕組みを作るという目標だと思うが、制度的な基盤がないところで枠組みを作ってしまうと、脆弱になりかねない。どのような見通しで枠組み作りを進めているのか。また、医療・福祉・健康づくりにおける地域の核となる場の設置とどのように差別化しているのか。

事務局 仕組み作りについては、現在、3つのモデルエリアを設けて実践をしているが、社会福祉協議会などとも連携をしており、福祉分野と重なる部分もある。拠点づくりとしてはまだ検討中である。

副会長 「地域コミュニティ社会の醸成を図る」とあるが、これは地縁的な意味合いが強く、多摩市民の感覚では、隣近所の繋がりよりもいろいろな縁による繋がりの方が合っているのではないかと考える。医療福祉健康の拠点、市民協創の場、関係・場というものを上手く使っていくべきと考える。

事務局 時間が超過しているため、今日この場で意見が残っている場合、メールなどで直接伝えていただければと考える。

【3 その他】

事務局 審議会委員の再任について、書類をお配りしているためご対応いただきたい。
また、報告事項として、市民意見の収集として、小中学生の発表・市政への提言として「こどもみらい会議」を予定している。ここでいただいた意見については基本計画策定に反映していきたいと考えている。結果を報告するとともに、その様子はYouTubeで公表を予定している。

次回の審議会の日程について、次回が2月20日19時から実施する旨を説明。

会長 その他、委員から連絡事項等がないようなので、審議会を閉会する。

【閉会】

以上